

V. ケンセツミライトピックス

1. 2023～2024年の社会資本整備を取り巻く出来事

道道泊共和線の完成

北海道電力泊発電所周辺における地震・津波などの自然災害と原子力災害の複合災害に備え、避難や救助活動をはじめ救援物資の早期輸送の支援などを目的に、平成25年度より道路整備を進めてきており、先行して供用している発足・国富工区（L=11.0km）に続き、令和6年3月に茅沼工区（L=5.1km）が完成し、これにより、全線（L=16.1km）で供用を開始しました。



令和5年度完成区間



完成状況

道南の空の玄関口へのアクセス強化

令和5年度に函館新外環状道路「函館空港IC」と函館空港を連絡する幹線街路3・3・37号空港通が完成し、円滑な都市内交通を確保するとともに機能的な交通ネットワークを形成し、観光・物流ネットワークの強化が図られました。



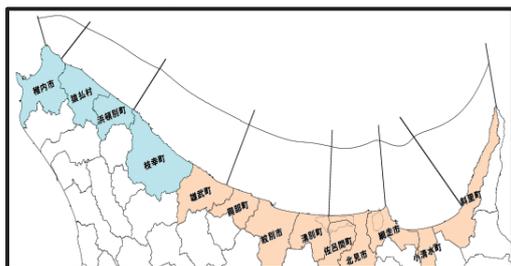
令和5年度完成区間



完成状況

オホーツク海沿岸の設計津波水位の設定

海岸保全施設などの設計に用いる津波の水位（設計津波水位）を設定するため、令和5年7月に有識者からなる「オホーツク海沿岸の設計津波水位検討懇談会」を設置。懇談会の意見を踏まえ、7つに区分した地域海岸で設計津波水位を設定。※太平洋、日本海沿岸においては、既設計津波水位を設定済み。



出典：国土地理院 基盤地図情報を背景に利用
宗谷岬から知床岬までのオホーツク海沿岸を検討



令和5年災害について～公共土木施設災害～

令和5年は、2月の波浪による海岸の災害から始まり、7月の地すべり災害、7月、8月、9月、10月、11月と豪雨災害が続いて発生しました。特に8月の豪雨では、大雨に係る甚大な被害の発生状況を鑑み、国土交通省より『査定の効率化について』の通知を受け、設計図書添付図面の簡素化により査定申請を行いました。令和以降では、昨年度に次ぐ規模の査定申請額（約35億円、71箇所程度）となりました。また、道北道東地区の被災が多く、短い時間に強烈に降る、いわゆるゲリラ豪雨が多かったのも今年の特徴でした。

※国土交通省所管公共土木施設（公園、港湾除く）、北海道及び市町村の合計

**令和5年10月5日に
中杵臼（浦河町）観測所で
観測史上第1位の日最大1時間雨量
75mmを記録！！**



二級河川海辺川（10月5日～6日豪雨 様似町）
豪雨による河川の増水より、河床低下及び河岸浸食が発生し、既設護岸ごと被災した。
（この周辺では、国道での土砂崩れも発生）

**令和5年7月13日に
美幌（美幌町）観測所で
観測史上第1位の日最大1時間雨量
93mmを記録！**



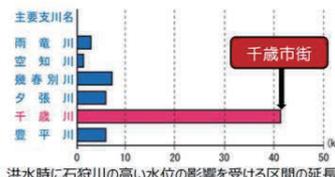
第875号道路（町道）（7月13日豪雨 美幌町）
短時間の豪雨により路面や背後地からの雨水が集中し、道路を浸食する災害が発生した。

石狩川水系千歳川等の特定都市河川指定

石狩川水系千歳川等（道の管理区間を含む35河川）において、河川整備の加速化に加え、流域における雨水流出抑制対策等を法的枠組みのもと推進し、早期に水害への安全性の向上を図るため、道内で初めて特定都市河川として指定しました。2024（令和6）年に、河川管理者、関係市町などで構成する流域水害対策協議会において流域水害対策計画を策定し、「流域治水」を本格的に実践します。



千歳川流域水害対策協議会
開催状況（R5.10.30）



洪水時に石狩川の高位の影響を受ける区間の延長



S56.8
浸水状況



H26.9
浸水状況（恵庭市）

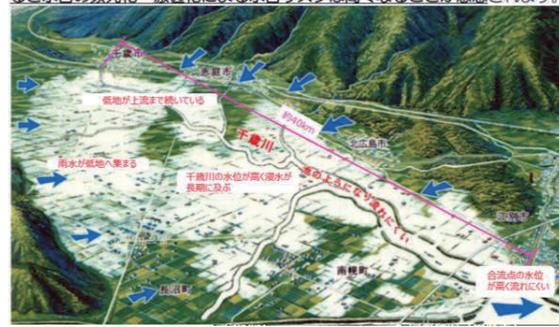
**千歳川流域は「特定都市河川浸水被害対策法」に基づき
「特定都市河川」および「特定都市河川流域」
に指定されました**

※令和5年8月31日指定

ハード・ソフト一体の水災害対策「流域治水」の本格的実践に向けて、ハード整備の加速に加え、国・道・市町・企業等のあらゆる関係者の協働による水害リスクを踏まえたまちづくり・住まいづくり、流域における貯留・浸透機能の向上等を推進していきます。

千歳川の治水上の課題

- ◆ 千歳川流域は、中下流部に広大な低平地が広がっているため、洪水時に石狩川の高位の影響を約4.0kmにわたり長時間受けるという他地域にない課題を有しています。
- ◆ 堤防整備・河道掘削等の河川整備は途上であり、さらに気候変動の影響を踏まえると水害の頻発化・激甚化による水害リスクは高くなることが懸念されます。



北海道開発局札幌開発建設部

防災・流域治水に関するシンポジウムの開催

流域治水への理解を深め、北海道における取組みについて考えることを目的として、第一線で活躍する有識者を招き、2024（令和6）年3月に国・北海道などで「北海道における流域治水シンポジウム」を開催しました。

【シンポジウム内容】

- | | | |
|-----|--|-----------------|
| 講演① | 北海道から始める流域治水～社会の安全をめざす～
公益社団法人 河川財団理事長 | 関 克己氏 |
| 講演② | 気候変動に対応した水害に強いまちづくり
東京大学生産技術研究所教授
東京大学社会科学研究所特任教授 | 加藤 孝明氏 |
| 講演③ | 土木・建築・医療の知見を融合した医療機関における水害
リスク評価とその取組み～人吉医療センターにおける取組み～
公益社団法人全国防災協会監事
一般社団法人全国海岸協会理事 | 野田 徹氏
鳥山 亜紀氏 |
| 講演④ | 清水建設株式会社設計本部プリンシパル
生産空間を守る北海道版流域治水
国土交通省北海道開発局建設部河川計画課長 | 時岡 真治氏 |



道有建築物の脱炭素化指針の策定

道有施設のうち建築物から排出される温室効果ガスの削減、脱炭素化を推進するため、施設の新築、改築や改修、運用などの方針や基準を指針として定めた「道有建築物の脱炭素化指針」を令和5年（2023年）7月に策定しました。

指針に基づき道有建築物のZEB化、省エネルギー化を推進するとともに、こうした道の取組の成果を周知することにより、市町村や民間事業者による建築物の脱炭素化の促進を図ります。

道有建築物の脱炭素化指針 基本方針

- ①徹底した省エネルギー化の推進
 - ✓外皮性能の向上、空調・照明等の設備の高効率化など
 - ✓改築等では創エネルギーを含まないBEI \leq 0.5を原則
 - ✓長寿命化改修では創エネルギーを含まないBEI \leq 0.8を推奨
- ②再生可能エネルギーの導入
 - ✓太陽光発電設備の設置
 - ✓太陽熱・地中熱などの利用等の推進
- ③木材利用の推進による炭素の長期固定化
 - ✓構造の木造化、内装等の木質化などを推進
 - ✓道産木材を積極的に活用



ZEBReadyで建設中の室蘭建設管理部苫小牧出張所完成イメージ図

「暮らしと住まいの2 days～ほっかいどう住宅フェア2023～」に3万人来場！

令和5年9月16日（土）、17日（日）に道庁赤れんが庁舎前庭とアカプラに暮らしや住まいに関わる49の企業・団体が集い、「北方型住宅」や北海道の家づくりに関する取組や製品、豊かな暮らし方などを訴求するイベントを開催。前夜祭を合わせ約3万400人が来場しました。



家族連れなどが多くの来場者が訪れ賑わったアカプラ会場



赤れんが庁舎前庭会場のメインステージで北方型住宅をPR

「2024ふゆトピア・フェア in 北広島」が4年ぶりに開催

令和6年1月10日～11日の2日間、北広島市のエスコンフィールドHOKKAIDOほかを舞台に、「2024ふゆトピア・フェア in 北広島」が開催されました。

道が担当する「ふゆトピア展示会」には、全国各地から36の企業・団体が出展し、積雪寒冷地における快適な冬の生活環境づくりや防災力向上のための雪氷対策技術などが多数展示され、他の会場も含めて全体で5千人を超える来場者が訪れました。



「2024ふゆトピア・フェア in 北広島」の開会式



展示会の開催状況

建設産業ふれあい展（8回目）を開催

道民の皆様へ、建設産業の役割や重要性について理解を深めていただけるよう、札幌駅前通地下歩行空間において、令和6年1月6日（土）と7日（日）の2日間で開催しました。

建設現場のバーチャルリアリティ体験、お仕事（ものづくり）体験などを通じ、子どもたちや保護者の方々にも建設産業を身近に感じていただきました。



バーチャルリアリティ体験



イス作り体験

<参加者の感想>

【子ども】

- ・たくさんの体験ができたので、楽しく北海道の建設業を学びました。
- ・いろんな体験ができて楽しかった。建設業に興味があった。

【保護者】

- ・建設業のイメージが変化しました。建設業関連の皆さまの果たす役割は大きいと思います。
- ・建設業体験イベントは、建設業に子供たちが興味をもってくださり、きっかけづくりにとてもよいです。

建設企業の魅力発信強化セミナーを開催

地域における新規就業者の採用を促進するため、宗谷地域（稚内市）と根室地域（中標津町）において、外部講師をお招きし、HPやSNSの活用、求人票に記載すべき事項など企業の魅力発信をテーマにセミナーを開催しました。



【北海道公式】セミナー等のアーカイブ配信専用チャンネルで根室地域版がご覧いただけます。



<https://m.youtube.com/watch?v=c9bJU3EFq4Y>

公式X（旧Twitter）アカウントを開設しました！

建設産業に関する情報をより広く発信していくため、Xアカウント『建設産業ミライ振興通信「道知るべ」』（@signpost_ksk）を開設しました。

建設産業の役割や魅力、取組や役立つ情報などをタイムリーに、身近に感じていただけるよう発信しておりますので、ぜひご覧ください。



<https://www.pref.hokkaido.lg.jp/kn/ksk/ksgs/boshu/signpost.html>



https://twitter.com/signpost_ksk

「命のみち」づくりを求める東京大会の実施

令和5年(2023年)11月1日、道内の市町村長を含めた総勢約200名が参加し、東京都内で北海道「命のみち」づくりを求める東京大会を開催した。激甚化・頻発化する災害に備えることはもとより、広大な北海道における圏域間交流の拡大や物流の効率化、救急搬送時間の短縮のためにも、高規格道路のミッシングリンクの解消等による道路ネットワークの構築を強く訴えました。



決 議

近年の激甚化・頻発化する自然災害の脅威から道民の命と暮らしを守るためには、防災・減災、国土強靱化に向けた取組を加速する必要があるとともに、ゼロカーボン北海道や食と観光等の振興に取り組む本道が、そのポテンシャルを生かし、我が国に一層の貢献をするために次の事項を強く求める。

- ・ 防災・減災、国土強靱化のための五カ年加速化対策期間完了後においても、切れ目無く継続的・安定的に国土強靱化の取り組みを進めるため、国土強靱化実施中期計画を早期に策定
- ・ 高規格道路のミッシングリンクの解消、暫定二車線区間の四車線化、直轄国道とのダブルネットワーク化、重要物流道路の整備等による道路ネットワークを構築
- ・ 国土強靱化の事業計画等に基づく橋梁、トンネル、舗装等の老朽化対策を推進
- ・ スマートICの整備やジャンクションのフル化、及びSA・PA施設の充実など機能強化
- ・ 除排雪をはじめとする維持管理の充実及びその財政支援の強化
- ・ 北海道開発局等の体制の充実・強化や災害対応に必要な資機材の更なる確保

これらの項目を踏まえ、令和6年度道路関係予算および令和5年度補正予算について、必要な予算の確保を図ること。

※北海道「命のみち」づくりを求める東京大会 決議文（抜粋）